

新しい表示メディアの出現に期待する

筒井哲夫

(九州大学大学院)

有機 EL (electroluminescence) デバイスの技術の発展により、自発光型のフルカラー薄型フラットパネルディスプレイが現実のものとなった。大画面化、フレキシブル化の基盤技術開発と生産技術の確立までにはまだ相当の日時は要するであろうが、到達可能な現実課題となってきた。電子ペーパーについても、こんな技術があればいいなという段階を超えて、どのようにして実現するかの方式についていくつもの現実的な技術が提示されてきており、この数年で広く普及するとまでは期待できないとしても、着実な技術展開が始まっている。

技術開発に携わる研究者は、これまでにない画期的な技術であれば、世の中に提示すればすぐ受け入れられ、広く普及すると期待しがちである。しかし現実には、社会の仕組みを変革し、人々の生活の利便性を画期的に変える技術であればあるほど、導入と普及には予想を超えた日時を要する。フレキシブルディスプレイや電子ペーパーの普及は、現在の情報社会の姿を大きく変え、人々の生活を一変させる可能性を秘めている。昨日まで、日常は新聞とテレビから情報を得て、仕事や余暇に厚い本を読んでいた人々に、ポケットに入る高性能のフレキシブル情報媒体にすべてを切り替えることを突然に要請しても納得しないであろう。しかし一方では、携帯電話のあの小さな画面を唯一無二の情報媒体として利用する若者群はすでに出現しており、携帯電話関連技術の研究開発を行ってきた研究者の予想をはるかに超えて事態は進行してきている。

フレキシブルディスプレイ、電子ペーパーは優れた要素技術の集大成を構築しつつあるが、あまりにも具体的すぎるネーミングが災いしてか、ややもするとあたかも使用目的までを細かく規定した個別技術であるようにみえることに若干の危惧を抱かざるを得ない。人類が情報伝達の手段として絵や文字をさまざまな記録媒体に記録し表示するようになったのが広い意味のディスプレイ技術の起源であるとするならば、それは紀元前 2500 年ごろの楔形文字の発明にまでさかのぼることになる。ディスプレイを軟らかい素材で作るのは、そのような長い長い技術史のほんの一コマに過ぎない。今日明日の小さな利便性ばかりを追求せず、ゆっくり、しかし着実に関連科学技術を発展させたいものである。